

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Neurosurg 107: 548-554, 2007 (平成 年 月)	Characteristics and distribution of somatosensory evoked potentials in the subthalamic region.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 1596-1601, 2007 (平成 年 月)	Origin of facilitation in repetitive, 1.5 ms interval, paired pulse transcranial magnetic stimulation (rPPS) of the human motor cortex	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 1545-1556, 2007 (平成 年 月)	EFFECTS OF THIRTY-MINUTE MOBILE PHONE EXPOSURE ON SACCADES	宇川義一	神経内科
Mov Disord 22: 728-731, 2007 (平成 年 月)	Severe hypokinesia caused by paraneoplastic anti-Ma 2 encephalitis associated with bilateral intratubular germ-cell neoplasm of the testis.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 2120-2122, 2007 (平成 年 月)	Comparison of different methods for estimating motor threshold with transcranial magnetic stimulation.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 2227-2233, 2007 (平成 年 月)	Differences in after-effect between monophasic and biphasic high-frequency rTMS of the human motor cortex.	宇川義一	神経内科
Behav Neurol 18: 99-114, 2007 (平成 年 月)	Parietal dysgraphia: Characterization of abnormal writing stroke sequences, character formation and character recall.	宇川義一	神経内科
Neurology 70: 528-532, 2008 (平成 年 月)	Evaluation of corticospinal tracts in ALS with diffusion tensor MRI and brainstem stimulation.	宇川義一	神経内科
Clin Neurophysiol 118: 2672-2682, 2007 (平成 年 月)	Quadro-pulse stimulation is more effective than paired pulse stimulation for plasticity induction of the human motor cortex.	宇川義一	神経内科
Exp Brain Res 185: 279-286, 2008 (平成 年 月)	Short and long duration transcranial direct current stimulation (tDCS) over the human hand motor area. Exp Brain Res 185: 279-286, 2008	古林俊晃	神経内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Neurophysiol 119: 1400-1407, 2008 (平成 年 月)	Difference in intracortical inhibition of the motor cortex between cortical myoclonus and focal hand dystonia.	宇川義一	神経内科
Acta Neurol Scand 118: 132-135, 2008 (平成 年 月)	A case of bilateral parietal cortical laminar necrosis with a loss of vertiginous sensation.	杉浦嘉泰	神経内科
Clin Neurophysiol. 2008 Mar;119(3):504-32 (平成 年 月)	The clinical diagnostic utility of transcranial magnetic stimulation: Report of an IFCN committee.	宇川義一	神経内科
J Physiol 2008 586: 3927-3947 (平成 年 月)	Bidirectional long-term motor cortical plasticity and metaplasticity induced by quadripulse transcranial magnetic stimulation. J Physiol 2008 586: 3927-3947	宇川義一	神経内科
Acta Neurol Scand 118: 94-98, 2008 (平成 年 月)	Paired stimulation study of the median nerve sensory action potential in diabetic patients.	榎本 雪	神経内科
Journal of Cognitive Neuroscience, 19(9) 1556-1573 (平成 年 月)	Modifying the Cortical Processing for Motor Preparation by Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation.	宇川義一	神経内科
Internal Medicine 46(18) 1617-1620 (平成 年 月)	An Adult case of relapsing human herpesvirus-6 encephalitis.	榎本 雪	神経内科
Clinical Neuroscience 別冊, 25(3)266-267 (平成 年 月)	筋力(1).	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience 別冊, 25(4)382-385 (平成 年 月)	筋力(2).	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience 別冊, 25(5)506-509 (平成 年 月)	筋力(3).	宇川義一	神経内科

小計 10

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Neuroscience別冊, 25(6)626-629 (平成 年 月)	筋力(4)	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience別冊, 25(7)742-744 (平成 年 月)	筋力(5).	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 25(11)1198-1201 (平成 年 月)	反射(1)総論.	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 25(12)1314-1317 (平成 年 月)	反射(2)上肢腱反射.	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 26(1)12-13 (平成 年 月)	反射(3)下肢腱反射.	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 26(2)128-131 (平成 年 月)	反射(4)表在反射.	宇川義一	神経内科
臨床神経学, 47(2・3)96-99 (平成 年 月)	関節リウマチに対する抗TNF α 抗体治療中に視覚認知障害を呈した1例.	宇川義一	神経内科
Medical Practice, 24(7)1292-1293 (平成 年 月)	本態性振戦essential tremor.	宇川義一	神経内科
神経内科, Reprinted from NEUROLOGICAL MEDICINE 67(4) (平成 年 月)	くも膜下出血後の脳血管攣縮による両側島の脳梗塞.	松田 希 柴野 健 宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience, 別冊, 26(1)16-20 (平成 年 月)	チャンネルとてんかん生理.	杉浦嘉泰 宇川義一	神経内科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脊椎脊髄ジャーナル, 20(3)217-222 (平成 年 月)	特集 神経・筋疾患診断のための電気生理学的検査—基礎とその臨床評価. 経頭蓋的磁気刺激の基礎と応用.	宇川義一	神経内科
神経内科 67: 392-393 (平成 年 月)	くも膜下出血後の脳血管攣縮による両側島の脳梗塞	松田 希 柴野 健 宇川義一	神経内科
Orthostatic tremor 神 経内科 66: 128-130 (平成 年 月)	Orthostatic tremor 神経内科 66: 128-130	宇川義一	神経内科
Clinical Neuroscience 25: 795-797 (平成 年 月)	神経根磁気刺激	宇川義一	神経内科
Review. Brain Medical 12: 317-321 (平成 年 月)	神経学における歩行	宇川義一	神経内科
神経治療学, 24(6) 719-723 (平成 年 月)	低髄液圧症候群の体位性頭痛と両側感音性難聴に経口theophylline治療が奏功した1例.	遠藤一博 宇川義一	神経内科
ポリオ日本臨床 65 (3), 60-68 (平成 年 月)	新感染症学 新時代の基礎・臨床研究 感染症学各論 感染症法分類 発症・病態・診断・治療 二類感染症.	遠藤一博	神経内科
中外医学社、27-39 (平成 年 月)	運動障害movement disorders の電気生理検査. Annual review 神経 2007, 柳澤信夫、篠原幸人、岩田誠、清水輝夫、寺本明編、	宇川義一	神経内科
中外医学社、209-214 (平成 年 月)	磁気刺激療法は有効か. EBM神経疾患の治療、岡本幸市、棚橋紀夫、水澤英洋 編、	宇川義一	神経内科
J Gastroenterol Hepatol. 22(11):2001-8, 2007 (平成19年 月)	Participation of bone marrow cells in biliary fibrosis after bile duct ligation.	Asawa S	第一外科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol Hepatol. 22(11):1971-7,2007 (平成19年 月)	Ischemic preconditioning enhances regenerative capacity of hepatocytes in long-term ischemically damaged rat livers.	Yamada F	第一外科
Fukushima J Med Sci. 53(1):1-9, 2007. (平成19年 月)	Ornithine decarboxylase activity as a prognostic marker for colorectal cancer.	Hoshino Y	第一外科
Lung Cancer. 57(2): 187-92, 2007. (平成19年 月)	Carbohydrate status detecting by PNA is changeable through cancer prognosis from primary to metastatic nodal site: A possible prognostic factor in patient with node-positive lung adenocarcinoma.	Shio Y	第一外科
移植42(3):235-241, 2007 (平成19年 月)	【組織移植の現状と今後の展望】膵島移植の現状と展望.	穴澤貴行	第一外科
日本呼吸器外科学会雑誌 21(4):560-564, 2007. (平成19年 月)	肺癌再発巣に対してラジオ波焼灼術を施行し、効果判定にFDG-PETが有効であった1例	樋口光徳	第一外科
日本小児がん学会雑誌 44(2):130-134, 2007. (平成19年 月)	後腹膜腫瘍に対する腹膜前腔アプローチの検討	伊勢一哉	第一外科
癌と化学療法 (平成 年 月)	ペプチドパルス樹状細胞療法におけるモニタリングとしてのCTL assay, DTHの検証	岩館 学	第二外科
Oncol Rep.2008 Mar;99(3):595-600. (平成 年 月)	Expression of phospholipase D2 in human colorectal carcinoma.Expression of phospholipase D2 in human colorectal carcinoma.	Takenoshita S.	第二外科
Biochem Biophys Res Commun. Biochem Biophys Res Commun. . 2007 Nov;18(5):1329-34. (平成 年 月)	Circadian rhythm of apoprotein H (beta2-glycoprotein-1) in human plasma.Circadian rhythm of apoprotein H (beta2-glycoprotein-1) in human plasma.	Takenoshita S.	第二外科

小計 9

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)

19年4月～20年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World J Gastroenterol.2007 Aug 24;360(2):418-22. Epub 2007 Jun 19. (平成 年 月)	Correlation of N-myc downstream-regulated gene 1 expression with clinical outcomes of colorectal cancer patients of different race/ethnicity.	Takenoshita S.	第二外科
Cancer Sci. 2008 Mar;99(3):595-600. (平成 年 月)	Peptide nucleic acid-locked nucleic acid polymerase chain reaction clamp-based detection test for gefitinib-refractory T790M epidermal growth factor receptor mutation.	Takenoshita S.	第二外科
Journal of Neurosurgery (平成 19 年 7月)	Blood flow disturbance in perforating arteries attributable to aneurysm surgery	SASAKI Tatsuya	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgia (平成 19 年 9月)	Cerebral Medulloepithelioma With Long Survival -Case Report-	MATSUMOTO Masato	脳神経外科
CI研究 (平成 19年 10月)	脳梗塞に対するmulti-detector CT (MDCT)を用いたd3D-CTA (dynamic 3D-CTA)	松本正人	脳神経外科
小児内科 (平成 19 年 11月)	脳腫瘍の髄液播種	松本正人	脳神経外科
東北脳血管障害研究会 (平成 19 年 12月)	脳血管障害に対するd3D-CTA (dynamic 3D-CTA)	松本正人	脳神経外科
Fukushima Journal of Medical Science (平成 19 年 12月)	Can 3D-CT Angiography (3D-CTA) Replace Conventional Catheter Angiography In Ruptured Aneurysm Surgery? Our Experience With 162 Cases	MATSUMOTO Masato	脳神経外科
脳卒中の外科 (平成 19 年 12月)	3D-CTを用いたくも膜下血腫定量の試み	佐藤拓	脳神経外科
脳卒中 (平成 20 年 1月)	脳梗塞に対するd3D-CTA (dynamic 3D-CTA)の臨床応用の可能性	松本正人	脳神経外科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。